

I. ごあいさつ

阪神電車をご利用いただくとともに、阪神グループにご愛顧賜りまして、誠にありがとうございます。沿線の皆様には、鉄道事業の運営にご理解とご支援を賜り、重ねて御礼申し上げます。

当社は、開業以来、輸送の安全水準の維持及び向上を図るため、安全管理体制の整備に努め、輸送の安全確保に最善を尽くしてまいりました。今後、これまで蓄積し醸成してきた安全への取組みを継続するとともに、更なる安全対策の深度化を目指して全力で取り組んでまいります。

さて、昨年には、継続的改善の一環として、安全管理体制を見直しました。1点目として、安全管理に特化した「鉄道安全会議」を鉄道部長会議から発展的に独立させ、当社の安全管理体制をより明確にしました。会議名に「安全」を冠することで、従業員に会議の目的を明示し、お客様や一般の方々にもご理解いただきやすいようにしました。2点目として、当社の安全に関する基本的な方針である「安全方針」に「安全の最優先」、「法令・規程の遵守」及び「安全管理体制の維持」という見出しを加えて従業員の印象に残りやすくすることで、より一層安全意識が浸透するようにしました。

また、昨年度に策定しました「安全施策 2011」では、一昨年 10 月から当社が神戸高速線元町駅～西代駅間の鉄道事業の運営と安全管理を担うことになったことを受けて、安全重点施策に「神戸高速線における安全輸送の維持向上」を掲げて取り組んでまいりました。神戸高速線における種々の訓練から得られた検証結果と実業務を通じて、規則類や作業手順書などが適切であるかを改めて確認し、安全性の向上に尽力しました。さらに、「ヒューマンエラーの原因分析の深度化」についても安全重点施策に掲げ、ヒューマンエラーの背後要因を含めた原因分析に取り組みました。分析結果を現場へフィードバックすることにより、ヒューマンエラーの低減に力を注いでおります。

平成 23(2011)年度の安全投資につきましては、神戸市内及び西宮市内における連続立体交差工事・三宮駅の大規模改良工事の継続、甲子園駅の改良工事の着手並びに武庫川駅の上りプラットホーム拡幅工事等を実施しました。これらにより、施設の安全性向上を図りました。

最後になりますが、昨年 3 月に発生した東日本大震災の被災者の方には心からお見舞いを申し上げます。当社では、この災害を教訓として訓練を実施するとともに、これまでの地震・津波対策の見直し・強化を進めているところです。地震・津波への対策をはじめ、安全管理体制のもと、これまで培った安全への取組みを継続し、更に改善していくことで、お客様に一層の安全・安心をご提供できるよう、引き続き役職員一同力を合わせて安全の向上に取り組んでまいります。



阪神電気鉄道株式会社
取締役社長

藤原 崇起

平成24年7月